

As your partner.

Nishitetsu Group company magazine
西鉄グループ誌

アチエ

Mar. & Apr. 2022

3 & 4

整備士歴23年。
経験を、知恵にする。

まちに、夢を描こう。

Nishitetsu
Group

裏方の
覚悟。

アチエ Mar. & Apr. 2022 3&4

西日本鉄道株式会社 広瀬・OS推進部発行(通刊1031号) 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3丁目5番7号 電話092(734)1217 制作/ラフエエム国際放送株式会社

19歳。 初めての「バス」整備

昨春、工業高校の自動車課を卒業した田中紘翔さん。西鉄エム・テックで2度目の春を迎えるところだ。入社1年目を田中さんは「とにかく難しいことばかりでした」とふりかえる。高校では自家用車の整備授業がメインとあって、バスの知識も整備もすべて入社して初めてふれたそう。十代の新人、当然、褒められることより厳しい言葉の方が飛んでくるはずだ。「まだそれしよつとやー」なんてことはしよつちゅうです。でも仕事は楽しいんです。職場の雰囲気がよくて」と、あどけない表情ではにかむ。「叱られてもへこみません。もっとうまくできるようになろうーと奮起します」と、根っから超ポジティブ体質のようである。

高校時代はハンドボール部で活躍。卒業の年、コロナ禍で大学進学をあきらめ、就職の道へ。縁あって西鉄エム・テックに入社した。「今は失敗も多いですが、目標は早く一人前になること。《今日やる作業ができなかったー》を無くすこと。整備の技を極めて、僕、有名になりたいです!」と、さらり。緊張など微塵も感じさせなかった19歳。大物の予感だ。

整備士歴1年。
失敗を、経験にする。

©西鉄エム・テック株式会社
田中 紘翔さん



As your partner.

マチユメ

Mar. & Apr. 2022 contents

1 まち×夢 Story

その道のプロ、という覚悟。

3 特集

裏方の、覚悟。

- ・故障させない。大事なことは、「数字」に表れる。
- ・未病という考え方。「何ごともない」のが、「あたりまえ」。
- ・失敗の数、とは何か。どこよりも厳しい「エム・テックルール」。
- ・無いなら、造るまで。 道具は「手」。日々、アップデート。

9 運転士も、覚悟。

13 2021年度 西鉄グループ

永年無事故表彰受賞者

14 RUNning is a LIFE !

vol.7_「若さ」という武器を、磨く！

15 Group Topics

18 人事オーライ！



Web版「マチユメconnect」

タイムリーに社内重要情報やお得情報をお届け中！！

editor's comment

本

号のテーマは、「あんぜん」。昨年度も同じテーマにて「運転士」を取り上げましたが、今回はその運転士を支えている「整備士」(西鉄エム・テック)にフォーカスしました。交通安全の「砦」である裏方ならではの視点には、西鉄グループにおける「あんぜん」への高い意識がたっぷり詰まっています。そして、その「覚悟」のDNAは何十年も前から脈々と受け継がれてきたものであり、西鉄グループのまさに根幹であると、現場の方々へのインタビューから感じていただければ幸いです。

整備歴23年のベテラン整備士と40年無事故達成のベテラン運転士との胸アツ対談をはじめ、元旦のニューイヤー駅伝を走り終えた陸上競技部へのインタビュー、表紙と裏表紙にまたがる赤バス・スマートグループバスのマニア垂涎の対比などが並び、本号も読みどころ満載となっていますので、ぜひご自宅をお持ち帰りいただき、ご家族ともお楽しみください。

ちなみに、西鉄エム・テックでは個人車検にも対応してくださるそうなので、その経験と覚悟に共感した方はぜひご活用ください。(原田)

天

神や博多の街なかを走るバスが、メンテナンスを受けるために帰ってくる場所「整備場」。そこには、下から覗けるように吊り上

げられたものや、エンジンを積んだ背中の部分がぱかっと開かれたものなど、普段は目の当たりにしない姿のバスがずらり。整備されるためにあらわになったバスの内部はまるで臓器のようで、どこかひとつでも間違えると機能しなくなるであろうことが分かります。これらをひとつひとつ丁寧に点検し、また元気に走れるように送り出す整備士の方からは、仕事に向き合う緊張感とやりがい、伝わってきました。そして驚いたことに、同じ見た目のバスでも、メーカーによって少しずつ部品の位置や仕様が違うのだとか。それらの個性を見極め、理解し、適切な処置を行うことは、まさに経験の成せる技です。バスの健康を守ること、それは運転士やお客さまの命を守ることにも繋がっており、それらを背負う整備士の方々の背中から「裏方の覚悟」を感じました。(山口)



特集テーマについて社長が発信するオリジナルメッセージ

代表取締役社長 林田 浩一

その道のプロ、 という覚悟。

西鉄グループが113年にわたって存続・発展を遂げることが出来ているのは、創業以来、長きに亘りお客さまの安全を最優先に、日々、一瞬一瞬の信頼をコツコツと積み重ねてきたからです。その積み重ねが、安全最優先のカルチャーを企業に根付かせ、「あんしん」のブランドイメージをお客さまや地域社会に定着させているのです。安全は私たちが事業活動において最優先に実現を目指す状態のことで、安全な事業活動を通して「あんしん」をお客さまに感じていただくことが私たちの使命です。バス・鉄道などの運輸業を中心に、私たちが営む事業の多くは、地域社会の皆さまの生活や産業を支えるインフラ事業ですので、安全であることは基本であるとともに、最重要事項です。

西鉄ストアに出向していた頃、安全な食品をお客さまにお届けするため、現場が大変な苦勞をしているのを目の当たりにしました。当時は、生鮮食品や豆腐・牛乳等の日配品は毎日、加工食品等は毎週、売場担当者が一品一品全て商品を手に取りチェックする手順に加え、月に1回は数店舗を選び本部署職者が多数出向き全品チェックで牽制機能を働かせる仕組みで、期限切れ

商品の販売を防止していましたが、マンパワーでの安全確保に限界を感じていました。

現在、スーパー等の食品小売の業界ではデジタルをはじめ新技術の導入が急速に進んでおり、既にカメラによる画像認識を活用した無人店舗への挑戦も進んでいます。店内作業の全てが新技術導入による自動化に馴染むとは限りませんが、少なくとも店内作業の自動化が進めば、人間は安全管理業務により集中できるようになります。新たな技術革新とマンパワーを組み合わせ、安全の質を高める好事例が生まれるのを期待したいと思います。

コロナ禍を受けた構造改革や事業モデルの構築、そして成長戦略の着実な実施と、会社が大きく変化するタイミングであるからこそ、安全最優先のカルチャーを再認識して、しっかりと足元を固めることが大切です。安全最優先のカルチャーの再認識と言うと、先輩方の知恵と経験が蓄積された手順やルールを愚直に実践する、保守的な取り組みを想起させるかもしれません。しかし、これからの時代、進展が著しい新たな安全技術の導入等にも取り組み、より高いレベルでの安全性を実現しつつ経済性も兼ね備えた、持続可能

な安全対策へと進化させていくことも欠かせません。

視野を広く持ち、常に新たな手法も検証し、良いものは取り入れ、速やかに組織として共有され、確実に実行されるような、柔軟で機動力のある規律性こそが、安全最優先のカルチャーの本質です。社会の要請やお客さまの価値観が変われば、安心の裏付けとなる安全の姿も変わります。ここ数年で当たり前となった「感染症拡大防止策」がよい例です。こういった時代の変化を的確に捉えて、迅速な対応を施すことが重要です。

当たり前のことを当たり前に提供すること。これを継続することは決して簡単なことではありませんが、全従業員が安全最優先の意識を高く持ち、必要な手順やルールを愚直に実践し、より安全が確保できるものへとブラッシュアップし続けることが、その道のプロとして求められているのです。

安全を追求することは、西鉄グループの持続可能性のみならず、地域、産業、社会の持続可能性の向上にも大きく貢献してくれるはずです。そんな成果を生み出せる仕事に携わること誇りをもち、小さなことからでも構いません、新たな挑戦を重ねてまいります。



この印刷物は環境に優しい植物油インキを使用しています。



裏方の覚悟。

私たちの事業で最も優先されるのは、お客さまの「安全・安心」です。とくに、主幹事業である〈バス〉〈鉄道〉は、直接的にお客さまと接する非常に重要な現場。いわば「西鉄といえは」の表舞台であり、西鉄の安全・安心の最前線に立っているのが運転士でしょう。

その運転士たちが表舞台なら、今回ご紹介する〈整備士〉たちはまさに「裏方」といえます。しかしながら整備士の仕事は、運転士同様、西鉄にとってきわめて「重要な動力」なのです。

『西鉄エム・テック（以下、エム・テック）』は、西鉄の旧整備事業部門（1967年）と『（旧）西鉄モータース』が統合し、2004年より現在に至ります。業務内容はバス整備部門と一般整備部門に分かれており、西鉄バスの保守管理をメインに、車検業、定期点検業を主業務として展開。福岡県を中心に32力所の整備拠点を構えています（基本バスの営業所に付随）。全従業員は732名、部門として営業

IT、保険などがあり、その中の自動車部門（バス整備に「122名の整備士」が所属しています。

お話を伺った那の津工場・バス部門整備を担当する福島正浩さんは、前述の〈西鉄の旧整備事業部門〉に入社した最後の社員。現場では組織の中心となるベテラン整備士です。

そもそも、自動車整備士（以下整備士）とは、一級、二級、三級の国家資格を有し、自動車の点検や修理作業に従事する専門技術者のことで、自動車整備工場（国の認証や指定を受けた工場）には一定数の有資格者をおかなくてはならないことが法律によって定められています。通常、車検・定期点検整備の他にエンジン・ブレーキ調整といった臨時修理を行うのが主な仕事です。エム・テックでは、2600台を超える西鉄バスを保守管理し、車検などの法定点検や予防計画整備を年間38900台（20年度実績）の整備を実施。その数をバス整備部門の全整備士122名で割ると、一人年間318台、月にして26台。つまり一人の整備士は1日1台の点検修理をこなしていることになります。

地域の暮らしになくてはならないバスの寿命を支える整備士たちは、まことの安全・安心を守る「縁の下」の力持ち。その生業への覚悟は、自信と誇りに満ちあふれていました。

バスの寿命を守る122名の整備士たち。全員が心を合わせ、今日もバスの安全を守る！（写真：那の津工場にて。）

写真左から
宮石 太郎、石井 龍介、マヌシカ メダナ、福島 正浩、吉田 昭二、田中 紘翔、伊藤 宗剛、西嶋 克成、荻林 幸治、森原 駿太、小西 達也、堤 幸信、井樋 和浩、長濱 伸也（14名）

西鉄エム・テック株式会社
[バス及び一般車両の整備、装備品の管理・修理]
福岡市中央区那の津4-5-3





緻密で繊細な作業が続く。

ただ、黙々と。

バスの下からエンジン部分の点検・整備を実施。<BRT（連節バス）>のデビューにより、那の津工場には長い車体を格納できる専用の整備スペースを設けた。車庫への移動もあり、整備士はバスの運転のために大型免許を取得している。

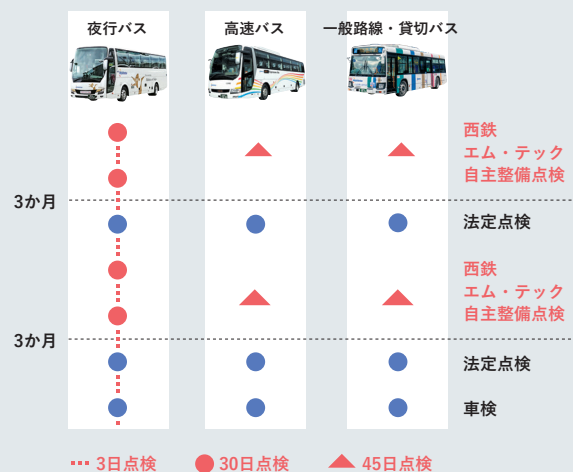
裏方の覚悟。1

故障させない。

大事なことは、「数字」に表れる。

法定点検（定期点検や車検）以外に、西鉄は安全運行をより強化するために西鉄独自で定めた自主点検を行っている、これを遵守するのが西鉄エム・テックの使命です。まず〈法定点検〉は事業用の場合、車検は1年ごと、その間で3か月ごとに法定整備が義務づけられています。ところが西鉄はさらにその3か月の間にもう1回、つまり45日おきに〈自主点検〉を行なっているのです（一般路線・貸切バス）。特筆すべきは高速バスです。走行距離が長いため車体への負荷が大きく傷みも速いといえます。さらに夜行バスともなると、一往復ごとに点検を行うという徹底ぶり（本州方面対象）！「これは西鉄の伝統なのです。バスに故障をさせない。安全ですから。昔からずっと受け継

がれてきたこと。同業他社はおそらく法定点検3ヶ月のままでしょう」と、福島さんは教えてくれました。



裏方の覚悟。2

未病、 という考え方

「何ごともない」のが、「あたりえまえ」。



「バスを故障させない」ために、定期点検に加え、私たちはもう一段階〈予防整備〉というインテリバル整備を設けています」と福島さんは続けました。予防整備とは各部品が壊れる前に計画的に行う部品の交換・整備。その基準はお客様の安全を第一に、長年培ってきた技術とノウハウをもとに路線形態別に定められているそうです。「バスの寿命は15〜20年ですが、どんなに点検を重ねてもバスというのは廃車になるまで大きな故障が起きてしまう車両もあります。とくに高速バスの環境は過酷。だからこそバスの寿命をまっとうさせるのが整備士の仕事です」。その具体策として

高い技術力で 西鉄バスをバックアップ！

右上) まずはバスを持ち上げ、エンジン部分から、二柱リフトという機械を使ってバスを150cmくらいまで持ち上げる。（右中）バスのトランスミッションという部品。乗用車の数倍の大きさ。



「エンジンは命。走行距離100万kmで〈乗せ換え〓オーバーホール〉を実施。夜行バスは100万km毎、高速バスは120万km毎に〈交換〉。セルモーターに限らず基準表にある部品は悪くなくても交換します」と、業界中でもシビアな対策！「部品は壊れる前に変えます。診断結果で〈再検査〉が出なくても変えます。つまり時期がきたら無条件に交換するのです」。それが「未病」のうちに、予防整備の本質。

「悪いところを治す修理は結果が目に見えて整備士には達成感があります。でも、本当は日々『何ごともないこと』。これに尽きますね」。福島さんの言葉が心に響きました。



裏方の覚悟。3

失敗の数、 とは何か。

どこよりも厳しい「エム・テックルール」。



作業「高架ビットでのルール」「エンジン始動不良時の現場対応」といったタイトルがA4用紙一枚ごとに付けられ、その解決策・注意事項などがこと細かに記されています。

「いわばこれはエム・テックの『失敗集』なのです。過去の事例、起きてしまったミス…それらを全社員が共有するためにつくった『ふりかえり集』。平成18年から綴りはじめました。内容は日々の小さな修理点検の手引きなのですが、ここまでこと細かく細分化して書かれた『マニュアル』は他社には無いはずです」と、福島さん。

「失敗も、安全の礎とする」。その証です。

西鉄の安全基準、エム・テックの遵守姿勢は、全国ベース以上のかなり厳しいルールを敷いていることがわかりました。それは、表れる数字でも業務内容でも実に明らかです。とくに前述の数字は、エム・テックの日々の業務規模を把握するのにも、安全への厳しい姿勢を実感するのにも、理解を深めてくれるものでした。しかし、西鉄エム・テックの社風、哲学の本質は、実は数字以外のところにも洋々とあふれていたのです。

それが、『エム・テックルール』。事務所の掲示板の一角、カードリングで綴った数十枚のラミネートフィルムの束です。そこには「正しい工具で基本

失敗を、経験に。 経験は、知恵に。

イラストや写真の図解付きのもの、矢印で手順を簡潔に説明するもの、写真上に赤丸でポイントをつけたものなど、いずれも大きな文字で「誰が見てもわかりやすく」という工夫の跡がにじんでいる。



「私たちは工具を造ることもありません」。驚いている私たちに見せてくれたのが写真（右）の工具です。左手に持ったものがオリジナル、右手にあるのが福島さんが造った改造品。先端が大きく曲がっています。「こうした特殊工具がないと修繕箇所に『一発』で

たどり着けない、すぐにアクセスできないのです。これがあれば、本来ならわざわざもう1個2個余分にはずすベきネジや部品もはずさなくていい。時短にもつながります」。エム・テックではこういったコスト削減意識、効率化作業について、自分たちで考え、提案・共有する機会があるそうです。

裏方の覚悟。4 無いなら、 造るまで。



「安全・安心・快適な車両の提供がわが社の使命。そのためには一人一人が多様な知識を蓄える必要がありますね。バスの性能は随分上がりましたが、逆にテクノロジーの進化がすご過ぎて、私たちの技術も追いつくのが大変なんです。操作一つ、大変。そうすると私たちの〈アップデート〉が重要。人間の方が追いつかないといけません。ですから、工具もスキルも常にアップデートしようとする姿勢が大事だと考えています。私たちはみんな得意ながら、触れて、考えて、話し合っているのです」。

整備士の『七つ道具』は 一人一台。

半分の長さに切ったスパナや先端を折り曲げた工具。自分の手になじむように、自分仕様に改造した工具も、みなでその知恵を共有し合う。常にアップデート。常にフィードバック！



安全・安心の“最前線”を守る
運転士

安全・安心の“土台”を支える
整備士



運転士覚悟。
も

〈運転士〉と〈整備士〉。
二人の間にあるのは“バス”です。
そこで〈BRT（連節バス）〉が
特別対談の舞台となりました。
永年無事故歴40年表彰のベテラン運転士が、
整備の現場で感じた“覚悟”とは？！



◎西鉄アイランドシティ自動車営業所

中上 弘一さん(永年無事故歴40年／66歳)

熊本県大矢野町(現・上天草市)出身。高校卒業後、昭和55年入社。城西(営業所)2年、西新1年、和白10年、香椎浜営業所10年を経て、現在アイランドシティ自動車営業所在任。整備士3級の資格保持者でもある。



◎西鉄エム・テック株式会社

福島 正浩さん(勤続年数23年／43歳)

佐賀県鳥栖市出身。平成10年入社。西鉄エム・テックの前身〈西鉄の旧整備事業部門〉に入社した最後の社員。桧原、久留米、甘木など県内各地の整備場勤務を経て、2021年より現在に至る。2級整備士。

時代を追いかける。
進化を乗りこなす。

—中上さん、永年無事故表彰の受賞、おめでとうございます。

中上／ありがとうございます。

—一般車道において40年も無事故だなんて本当にすごいことです。

中上／運がよかったんですよ(笑)。今はシニアとして「1」勝馬／西戸崎を担当していますが、今の天神や博多といった大都会の走行はもう昔と比べても交通量が半端なくて、若手の運転士たちは大変な毎日だと思います。福島／今は当時とは社会も変わっていますからね。

中上／はい、交通量だけでなく運転マナーやフードデリバリー自転車の出現など、正直クラクションも鳴らしづらい世の中ということも…。

福島／当時といえば、バスの性能も今と比べると本当に古くて、乗務員さんは毎回大変だったはずです。運転前点検時もオイルを補充しながら乗務してあったはずですよ。

中上／そうです。昔はバスはよく壊れてましたよ(笑)。オイル漏れなんかしょっちゅうで。営業所にはバスの代車もあったくらい。今のバスは進化し

ていて、もうオイル入れる場所もわからない(笑)。

—中上さんは今日、このバス(BRT)の運転席に初めて座ったそうですが、本当にびっくりされましたね。

中上／いや、驚きましたよ！まず「手動」がない！ギアもボタンだし、ハンドルも軽い。昔はアクセルも踏み込みが重くて足が疲れてました。女性ドライバーが増えた背景が見えますね。力が必要な操作が減っている。そういう意味で社会に意義ある進化をしていると思います。

福島／西鉄バスには外国産の車両があり、日本の整備士からするとそれらは全く違う考え方をした構造を持っているのです。また日本の車種メーカーでもかなりのパリエーション(いすゞ、三菱ふそう、日野など)があります。これは保有台数の多い西鉄ならではの。だからこそ私たち整備士は「このメーカーはここが弱い」など車種やメーカーの癖、特性をつかみやすいのです。

—〈予防整備〉にもつながっていますね！



「第六感」を研ぎ澄ます。

経験が、



―ところで、中上さんは整備士免許（3級）をお持ちでしたね。

中上／はい。昔取得していたのですが、トラブルの時は役立ちましたね。ファンベルトが鳴いたり、オイル漏れの時なども整備士さんたちに伝える前に自分で診たり。

福島／自分で診れるということは、異常のレベルもわかるということ。中上さんのように40年も無事故を誇る運転士さんは、やはり私たちとの日ごろのコミュニケーション一つ、違いますよ。整備士がすぐに診なければならぬポイントを的確に伝えてもらえます。「このへんからこんな音がする」とか。私たちは定期点検の時しかバスを診ることがないので、その間の異常を乗務員さんからいただくのはとても重要なことです。昔、こんなことがありました。



ある運転士さんに「タイヤに何か刺さってるけん診とって」と言われて診てみると、タイヤに大きな傷があったんです。あのまま次の乗務で高速道路に出していればバーストしていたかもしれません。

―整備士さんと運転士さんがコミュニケーションを持つ場というのはあるのでしょうか。

福島／定期的に「乗務員常会」が毎月あります。内容は安全に関すること＋伝達事項（燃料の動向や事故を例に啓発・教育・再周知など）ですが、車のトラブル対応や、燃料節約のためにエコドライブ運転の仕方などを伝授すること。

中上／（ヒヤリハット）もそうですね。実際、乗務中には「ヒヤリ」が結構あります。会社のルールや訓示の遵守は基本中の基本、大切ですが、実際の現場では間に合わない。最後の最後は自分の経験がそういった基本を呼び覚まし、とっさの判断につながるのです。事故の場面は常に状況が違うのですから。一にも二にも経験が大切。

福島／そうですね、訓示を頭に蓄積できても教えられたとおりの状況なんてない。その時の「いざ！」にはその人の感覚的な対応が迫られます。

中上／それに、なんか「気配」といいですか、事故を回避できた時にはわりと周りの「気配」を感じていました。



福島／中上さんが常に「アンテナ」をはっているからこそですよ。たとえ経験がなくても、当時、ちゃんと自分の危険察知のセンサーに引っかかってくれている（注意力）。ここに経験値が加われば鬼に金棒！知らず知らずの間に気配を感じとれるような感覚を身につけられるでしょう。私たち整備士も同じです。現場で起こるリアルなハプニングにはマニュアルだけじゃ足りない。むしろそれ以外のところにもっと大切な「何か」がある。それは自分で見つけるしかありません。あくなき（好奇心）といえますか。それに尽きますよ。後輩たちに伝えられることも自分が過去に経験したことだけなのです。だからそれぞれが自分自身で何かをつかむしかないんです。それが安全・安心への確かな道のりだと思っています。



なりたかった職業は？ パイロット。映画『トップガン』に衝撃を受けて！整備士になったのも、そこが源泉？

生まれ変わったら？ （間髪入れず）もちろん＜整備士＞！

整備士人生、何点？ 70点。まだまだです。

これからの夢は？ バイクで全国を旅したいですね。

●西鉄バスの模型

福島さんの仕事スイッチ！出社前、着替えながら部屋に飾っている西鉄バスの模型を眺めること（この数！仕事愛、西鉄愛！）



なりたかった職業は？ 数字に強かったので高校は商業科に行きたかった。就職はそれを生かしてと思っていたけど、なぜかバスの運転士に（笑）。

これからの夢は？ 70歳までは健康で勤めたい。一日一日、大切に。

今、楽しみは？ 仕事が終わって＜立花山＞に登ること。週3！体にいいし。

西鉄にひとこと。 年齢なりの仕事の仕方が用意されているのは幸せなこと。感謝です。

●諏訪神社（福岡）のお守り

「以前、会社で正月お参りにいった時にいただいたもの。無事故で仕事ができるのも運でしょうから（笑）」



RUN^{ning} is a LIFE!

vol.7 | “若さ”という武器を、磨く！



2021年11月3日、予選落ちした前回の悔しさをバネにして臨んだ九州大会。みごと7位を勝ち取り、2年ぶりに『ニューイヤー駅伝』に再び咲いた<西鉄陸上競技部>が、元日、群馬・上州路を走り抜きました。

結果は総合35位。記録、5時間04分24秒。目標の「25位」には届きませんでしたが、タスキが途切れることなく7区間7名が100kmを完走しました。すでに12名の陸上競技部員は気持ちを切り替え、来年に向け、再始動しています。

有隅剛志監督は「前半でいい流れをつくり、中・後半を粘り強く。全体をそのようにイメージしていました。各個人の課題はそれぞれにあります。新人たち“23歳トリオ”を中心によくがんばってくれました」と、競技をふり返りました。23歳トリオとは、2021年の箱根駅伝8区区間賞の実力を持つ大保海士さんを筆頭に、いずれも箱根駅伝を経験した河東寛

“23歳トリオ”の、覚悟！

大保 海士さん(4区)

ニューイヤー駅伝は満足できない走りでした。ただ、今回「本当に悔しい!!」と思えたのが唯一の収穫でした。今度はチーム最高20位を超えるためにチャレンジします！

山口 武さん(7区)

7区は目の前の相手に勝ち抜くことが仕事。アンカーの責任を果たせませんでした。来年はみなさんに「応援してよかった」と思ってもらえる走りを目指し、個人ではニューイヤーで区間25位以上を目標に！

速報！

祝！マラソン<8位>入賞！

2月6日開催<別府大分毎日マラソン大会2022>で、大勢の五輪候補ランナーが出場する中、山口さんが50人中8位でゴール！

河東 寛大さん(6区)

今年一年、社会人になってあまり練習できていなかったことを痛感。練習不足が結果に直結しました。来年は前半区間でほかの主力選手とわり合いたいです！

大さん、山口武さんら3人。彼らの若い力でいっそう層が厚くなり、チーム内競争も活性化したそうです。

さて、気持ちも新たに来年に向けての“覚悟”を伺うと、「もちろん一番の目標はニューイヤー駅伝です。今年の反省を生かしたさまざまなプラン・対応・トレーニング戦略はすでに動き出しています」。有隅監督はその具体策として、とくにサポートチームがチェックしている<メンタルのデータ化（集中、リラックス度など）>を今後は有機的な“活用”へと意気込んでいます。「そして課題はスピード強化です。そのベースとなるのはスタミナ、そのためには<総合力>を高めていくことが必要。若い選手は勢い・スピード感を、ベテランは堅実な走りを。駅伝は本番に力を出すのが難しい競技です。そのためにふだんのペース設定を高めること。メンタルデータを活用すること。フィジカルはルーティンの見直し。そしてなにより本番力！」。

2023年、もう一度、全員で元日の舞台へ！

40年間無事故

自動車事業本部

金武自動車営業所	副島 光一
アイランドシティ自動車営業所	中上 弘一

35年間無事故

自動車事業本部

西鉄バス宗像 ※出向	吉武 章治
------------	-------

30年間無事故

自動車事業本部

福岡高速自動車営業所	川上 真一
金武自動車営業所	上村 幸夫
片江自動車営業所	藤丸 繁成
那珂川自動車営業所	原 利光
アイランドシティ自動車営業所	池田 孝幸

鉄道事業本部

筑紫乗務所	河野 公大
柳川乗務所	猿渡 清隆
	野田 明俊
	岩永 謙
	古賀 勝也

貝塚電車営業所

西鉄バス北九州	
小倉自動車営業所	福永 徹
戸畑自動車営業所	大野 浩美智
門司自動車営業所	北村 利彦

25年間無事故

自動車事業本部

福岡高速自動車営業所	奥 義和
早良自動車営業所	河野 高廣

	永井 孝正
	藤 幸宏
	三宅 崇仁

金武自動車営業所	中山 博正
桧原自動車営業所	小野 伸一
柏原自動車営業所	上田 良文
片江自動車営業所	内之段 光郎

	坪根 正弘
宇美自動車営業所	和多 稔春
那珂川自動車営業所	原 光則

	山岸 文子
土井自動車営業所	吉村 進
アイランドシティ自動車営業所	飯田 尚弥

	伊東 博幸
--	-------

鉄道事業本部

筑紫乗務所	山田 純路
	川原 恵
	稲貝 誠

柳川乗務所	釘本 秀男
-------	-------

西鉄バス北九州

八幡自動車営業所	内田 司
香月自動車営業所	渡辺 進
北九州高速自動車営業所	松尾 幸雄
弥生が丘自動車営業所	江口 忠夫
戸畑自動車営業所	岩瀬 竜一

亀の井バス

別府営業所	工藤 幸一
	小野 信三

九州急行バス

長崎支社	山本 房良
------	-------

筑豊電気鉄道

電車営業所	中野 英樹
-------	-------

20年間無事故

自動車事業本部

杵岐自動車営業所	鶴 孝則
早良自動車営業所	永富 英司
金武自動車営業所	原田 敏三

2021年度 西鉄グループ 永年無事故 表彰受賞者

覚悟。運転士の、

昨年11月26日、西鉄ホールにて2021年度西鉄グループ永年無事故表彰式が開催されました。本年度は自動車関係780名、鉄道関係40名、計820名の乗務員の皆さまが受賞。820名の中から、無事故20年以上の方82名をご紹介します。



永年無事故表彰の全受賞者の方はwebグループ誌にて掲載しています



桧原自動車営業所	本田 哲也
柏原自動車営業所	久富 慎太郎
	池田 清一
	白石 純一
吉塚自動車営業所	田中 幸治
	田中 一徳
宇美自動車営業所	浅上 和馬
那珂川自動車営業所	中村 等
	嘉村 英昭
竹下自動車営業所	立石 克士
アイランドシティ自動車営業所	稲葉 健太郎
	宮崎 将利
	酒井 健
	鬼塚 邦彦
	築地 新一
	高野 武

鉄道事業本部

筑紫乗務所	七種 幸典
	浦部 英樹
	野見山 幹博
柳川乗務所	大場 章司
	北島 昇
	阿津坂 謙二
	西郷 政幸
	小柳 繁昌
	阿津坂 謙二
	葛原 祐志

貝塚電車営業所

西鉄バス北九州	
小倉自動車営業所	宮尾 勇二
八幡自動車営業所	古賀 裕二
門司自動車営業所	佐藤 勉
北九州高速自動車営業所	麻生 義隆
	重永 勇二
	原田 隆

亀の井バス

別府営業所	植野 雄一郎
	加藤 守

九州急行バス

長崎支社	横道 吉春
------	-------

※9/30日時点の所属

2021年度 社外からの表彰

自動車関係功労者国土交通大臣表彰

土井自動車営業所	西村 壽治
西鉄バス宗像 ※出向	吉武 章治

鉄道関係功労者国土交通大臣表彰

筑紫乗務所	古賀 保則
西鉄エンジニアリング ※出向	毛利 忠彦

自動車関係功労者運輸局長表彰

桧原自動車営業所	副枝 裕之
杵岐自動車営業所	藤野 正信
片江自動車営業所	藤丸 繁成
宇美自動車営業所	井上 健二
柏原自動車営業所	八尋 要作
	下川路 由紀雄

鉄道関係功労者運輸局長表彰

運転車両部運転課運転指令所	辻 貴英
施設部保線課	坂井 昭二
施設部電気保全課信号通信保全係	井上 国臣
柳川乗務所	北原 隆広
筑紫乗務所	原田 昭彦
西鉄エンジニアリング ※出向	平山 勇
	近藤 龍夫
	飛松 幸敏
	岩橋 昭生
	原 正彦

西鉄ステーションサービス ※出向	長谷川 悟士
	川野 修一
筑豊電気鉄道 ※出向	松永 幹雄

※表彰受賞時の所属

フタノエ Mar. & Apr. 2022

13

新年の職場巡視およびグループ会社を訪問

秘書課

2022年 1月12日・14日・17日

1月の3日間をかけて「新年社長巡視」が実施され、林田社長がグループ内の29の事業所を訪問しました。従業員のみならず、年々年末年始対応やコロナ対応への労い、新年の挨拶・激励の言葉をかけられ、施設の巡回を通じて、現場の従業員のみならずコミュニケーションをとられました。

巡視の大きな目的のひとつは、現場の第一線で働く従業員との「直接対話（コミュニケーション・ふれあい）」です。職場環境、従業員の心身の状態など、日ごろは見えづらい部分も、直接言葉を交わし合うことで、現況把握の一助となります。安全・快適で、コミュニケーションが活発な職場環境づくりは林田社長の信念の土台でもあります。

林田社長は積極的に各現場の執務エリアやバックヤード、屋外施設も視察され、多岐にわたる西鉄グループの業務理解を深められました。



「挑戦の風を、空から」HRD事業部を新設!

西鉄エアサービス

2021年 11月1日

『西鉄エアサービス株式会社(NishiAir)』は、2021年11月1日に組織改正をし、HRD事業部を新設しました。HRDとは「Human Resource Development」の略称で、人的資源を戦略的に育成・開発するために展開される「人材育成」および「組織開発」に関する一連の活動を意味します。

西鉄エアサービスHRD事業部は「NishiAir チャレンジ2020」として創立30周年を記念して行った教育事業プロジェクトでの取り組みと、弊社の人材派遣事業部が行っていた教育研修事業を引き継ぎ、年間を通して階層別研修をはじめ、さまざまなテーマや目的に応じた研修を企画・運営してまいります。

「NishiAirの研修は自ら未来に挑む人材を育てます」という理念のもと、にしてつグループ人材育成方針に則り、中長期的に各社の人材育成を支援します。グループ連携への貢献を目指し、西鉄エアサービスだからこそできる、にしてつグループの一員としての誇りやエンゲージメントを高める研修を提供します。



『福ビル街区建替プロジェクト』起工式を完了し、大きく前進

福ビル街区

2021年 12月22日

『福ビル街区建替プロジェクト』が、昨年末に起工式を執り行いました。当日はコロナ禍で、さまざまに制約の多い中ではありましたが、高島宗一郎・福岡市長や地権者の皆様をはじめとして、多くのご来賓の方々にご出席をいただきました。式典では、林田社長による地鎮の儀など各神事を厳かに執り行い、工事の安全を祈願しました。

当プロジェクトでは、創造交差点をコンセプトに、オフィス、商業、ホテル等様々な用途を導入、デザイン性や環境性能・BCP性能を高めたハイスpekビルを実現させ、新たなビジネスや文化の発信の場を創出します。2024年内の竣工を予定しており、完成後は地上97m（地上19階・地下4階）の大型複合ビルとなります。西鉄グループの将来を担う中核プロジェクトとして、オフィス、商業、ホテル等の事業変革に挑戦します。

天神の新たなシンボルとなるビルの完成にどうぞご期待ください。



65年の歴史に幕『かいかえん』閉園

レジャー

2021年 12月30日

2021年12月30日、香椎花園はその65年の歴史に幕を下ろしました。閉園の発表以降、本社の他部門やグループ会社のご協力をいただきながら、最終日まで大きな事故なく、営業を終了することができました。最終営業日には朝早くから入園待ちの列ができ、2017年のリニューアル直後のゴールデンウィーク以来、最多の8,988名が来園。林田社長も終日、香椎花園の赤いジャンパーと緑の帽子を着用。正門前に立ち、お客様へご案内・写真撮影などをされました。閉園時は、多くの方々、メディアが見守る中、地元福岡の劇団『ギンギラ太陽's』にショートストーリーを上演頂き、園長の閉園の挨拶とともに従業員一同の「ありがとうございました」の声をもって、この日のために特別に生花等で彩った正門を閉じ、閉園しました。

これまでの皆様のご愛顧に感謝申し上げます。これからも「花の継承企画」としてお客様や地域の方々にプレゼントした花木や種が咲き続け、園の想い出が心に留まり続けることを願っています。



人事 オーライ all right!

西日本鉄道
野田 敏幸さん
電力指令所
1980/3.24 ~ 2022/2.28

西日本鉄道
竹森 博一さん
柳川乗務所
1980/3.24 ~ 2022/3.13

長い間の勤務
ありがとうございました。

定年退職

西日本鉄道
松井 一夫さん
宇美
自動車営業所
1993/11.16 ~ 2022/2.20

西日本鉄道
松田 真治さん
柏原
自動車営業所
2009/8.26 ~ 2022/3.10

西日本鉄道
洲加本 浩樹さん
吉塚
自動車営業所
1998/8.11 ~ 2022/3.11

西日本鉄道
待鳥 和博さん
金武
自動車営業所
1990/10.2 ~ 2022/2.13

西鉄バス北九州
中尾 英伸さん
弥生が丘
自動車営業所
2002/1.15 ~ 2022/2.3

日田バス
江藤 晴之さん
日田営業所
2003/8.21 ~ 2022/2.28

西日本鉄道
松隈 安隆さん
西鉄ステーション
サービス 出向
1980/3.31 ~ 2022/2.24

西日本鉄道
池松 博志さん
自動車事業本部
業務部
1991/6.14 ~ 2022/3.27

西鉄バス北九州
友原 勝彦さん
香月
自動車営業所
1992/9.10 ~ 2022/3.20

西鉄バス北九州
武井 秀一さん
香月
自動車営業所
1994/6.10 ~ 2022/1.6

西鉄バス北九州
松崎 清香さん
戸畑
自動車営業所
2007/8.7 ~ 2022/3.23

西鉄バス北九州
樋口 和利さん
戸畑
自動車営業所
2009/4.14 ~ 2022/2.12

西日本鉄道
国際物流事業本部
西日本営業部
塚越 直哉さん
2022/1.1 入社

西日本鉄道
西鉄バス宗像
出向
宮崎 諒介さん
2022/1.11 入社

入社おめでとうございます。
よろしくお願いいたします。

入社

西鉄エアサービス
人材派遣事業部
藤 由美さん
2022/1.11 入社

西日本鉄道
国際物流事業本部
海運営業部
芦原 タさん
2022/1.1 入社

西日本鉄道
国際物流事業本部
通関部
高尾 望さん
2022/1.1 入社

都市開発事業本部

2022年 1月13日



『ハレノガーデン』が 福岡市都市景観賞を受賞

『県営天神中央公園 西中洲エリア ハレノガーデン』が福岡市都市景観賞のランドスケープ部門賞を受賞！建物の細部まで考え抜かれたデザインと那珂川、貴賓館との調和が評価のポイントとなり、応募総数225件の中から選ばれました。

西鉄バス北九州

2022年 2月5日



『屋外広告デザイン』 北九州連節バスが奨励賞受賞

個性豊かで、魅力のある街並み等を表彰する「第9回北九州市都市景観賞」で、連節バスが＜屋外広告デザイン奨励賞＞を受賞しました！ひときわ目を惹くその姿が市民の方々に親しまれ、景観の一部となっていることが評価されました。

西鉄興業

2022年 3月31日



50年の長い歴史に幕 ありがとう、西新パレスボウル！

1972年の開業以来、地域に根ざしたボウリング場としてご愛顧頂きましたが、施設老朽化に加え、新型コロナウイルスの影響が大きく、3月末日で閉店を迎えます。従業員一同、最後まで皆様を笑顔でお迎えしますので、ぜひご来館ください。

NNRシンガポール

2021年 12月23日・24日



XMASギフト交換会を開催 コロナでも士気UP！

事前にクジで引いた相手へ秘密で贈り物を用意する“Secret Santa Gift Exchange”方式で行われたクリスマスギフト交換会。どんな贈り物が喜んでもらえるか、と同僚を互いに思いやる気持ちが満ち、温かい雰囲気にも包まれる会となりました。

西鉄ホテルズ

2022年 1月5日



まるで絵画!?チョコペンで 描いたアートプレートを制作

『賀詞交歓会』にて九州のVIPの皆様にご覧のイメージをより実感いただけるよう、西鉄ホテルズの製菓スタッフがチョコペンで約1週間かけ《新福ビル・西鉄バス・西鉄電車》の精巧なアートプレートを作成！大好評をいただきました。

安全あんしん推進部

2022年 1月5日



宗像大社で安全祈願 安全・安心を再確認

林田社長、戸田副社長、自動車・鉄道両部門の関係者、安全あんしん推進部が、宗像大社を参拝。今年一年の交通安全を祈願。「安全・安心のブランドこそが西鉄グループ成長のための原動力となる」との訓示は気を引き締めるものでした。

監査等委員会

2021年 10月6日



ガバナンスの維持・向上を！ 社外取締役現場視察会

社外取締役の皆様による現場視察会を実施しました。各現場の取り組みや従業員の活躍について積極的にご質問やご意見をいただくなど、西鉄グループの企業価値向上のため、ご尽力いただいております。

片江自動車営業所

2021年 11月30日



輝くまなざしに感動！ 片江小学校の校外学習

昨年11月30日、片江営業所内において、地元・片江小学校支援学級の児童を招き、校外学習を実施しました。実際に構内に模擬バス停を設置し、バス乗降の流れや注意点を児童たちが実体験。間近に見るバスに目を輝かせていました。

西鉄バス研修センター

2021年 12月21日



大切な命を救え！ 救急救命講習を開催

『NPO法人セーバー風・ジャパン』指導のもと行われた救命救急講習で、心臓マッサージ・人工呼吸・AEDの使用法等や、怪我人の搬送方法等を全指導員が体験。救急車到着までは躊躇なく行う救命措置が命を救うと改めて実感しました。



Web版「マチユメconnect」だけの新コーナー登場！

Web版「マチユメconnect（マチコネ）」では、グループ従業員のみなさんの様々な『お気に入り』を紹介するコーナーが新たに登場！みなさんからの投稿が集まり次第、テーマごとに「マチコネ」で紹介します^^ あなたと共通の趣味を持つ仲間が見つかるかも！？

今回は、『自慢のペット』『わたし流！キャンプ』『サイクリングの魅力！』について募集中です！
参加方法はQRコードを読み取り、応募フォームから投稿してください！

応募フォームはこちらから

